

富士山木造住宅協会 第4回総会を開催

静岡県との災害協定なども報告

一般社団法人富士山

木造住宅協会は22日、静岡県富士市で第4回定期総会を開催し、約100人の会員・関係者が出席した。

大滝功会長（株大功建設）は4月に静岡県と結んだ災害協定の話に触れ、「平時においても、地域の木を使う地元工務店の団体があることを世間に知らせていければ、いい展開になると思います。それには皆様のご協力が欠かせません。この会が益々の発展をしてくれると思っておりますので、これからも宜しくお願いします」と挨拶

拶した。

災害時の連携協定は、静岡県内の建築関係4団体で構成する静岡県木造応急仮設住宅建設協議会と静岡県との間で締結。大滝会長が協議会会長を務める。

総会は第3期事業報

告、同収支決算報告、

第4期事業計画案、同収支予算案の報告を経て閉会。第2部では、東京大学大学院の前真之准教授（工学系研究科建築専攻）による基調講演「環境と省エネ基準を考えたこれからのエコ住まい」を開催した。

また第3部として、同協会事務局が「平成25年度地域型住宅ブランド化事業及び木材利用ポイント」の説明も行った。



静岡県木造住宅協会第4回定期総会